

**「小さなまちの大きな
森林づくりへの挑戦」
～企業との連携による森林とまちづくり～**

北海道 栗山町

北海道栗山町
産業振興課 主幹 名内 隆

事例紹介の内容

- 1 栗山町の紹介
- 2 「ほっかいどう企業の森林づくり」
- 3 企業との連携による森林づくり
 - ・ 連携のきっかけ
 - ・ 取組の内容
 - ・ 課題
 - ・ 実務プロセス
 - ・ 取組の成果
- 4 今後の見込み

事例紹介の内容

- 1 栗山町の紹介
- 2 「ほっかいどう企業の森林づくり」
- 3 企業との連携による森林づくり
 - ・ 連携のきっかけ
 - ・ 取組の内容
 - ・ 課題
 - ・ 実務プロセス
 - ・ 取組の成果
- 4 今後の見込み

栗山町って？

北海道 空知地方にある

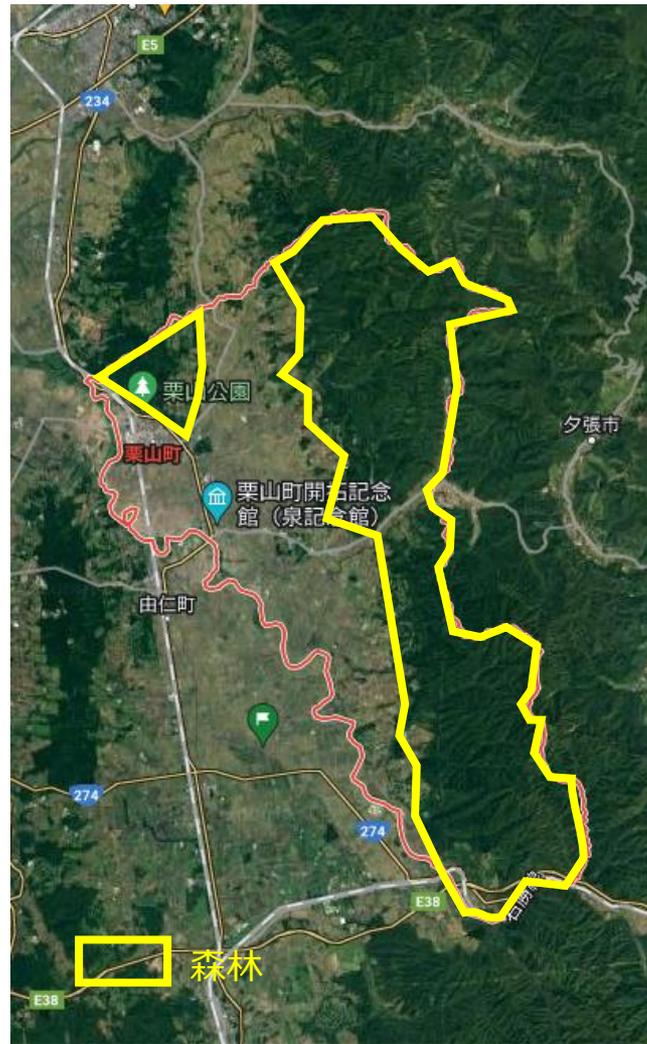
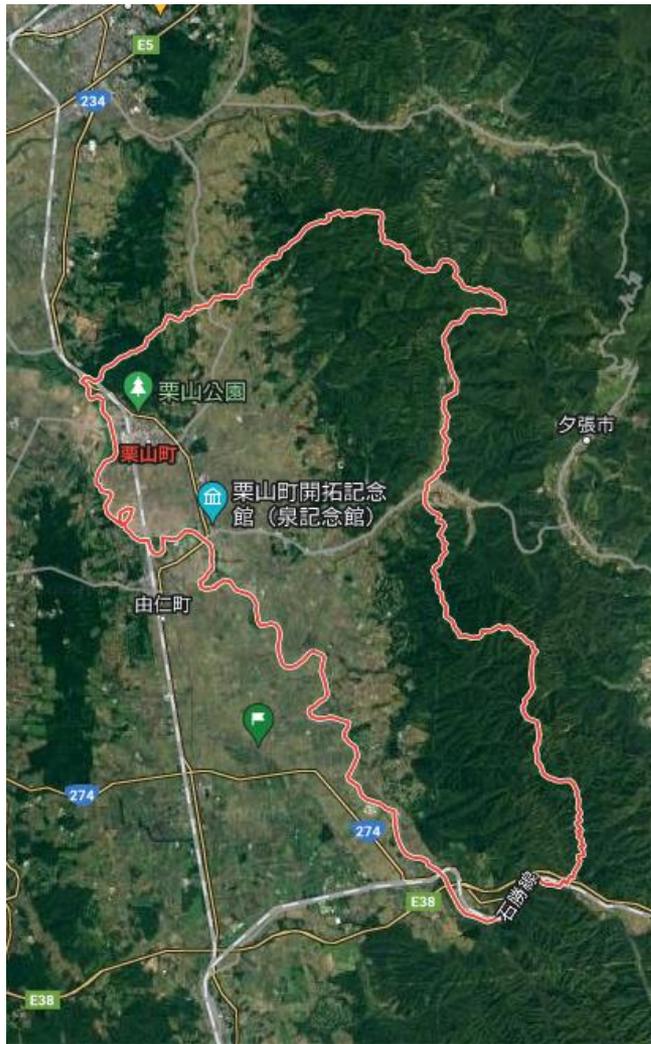
人口 **10,905人**
(令和5年12月31日現在)

面積 **203.93km²**

主産業 **農業**
水稲地帯
じゃがいもの種イモ
(出荷量 日本一！)



栗山町の森林・林業の現状



町全体の面積は

20,393ha

の内、森林の面積は

10,580ha

民有林	5,638ha
国有林	4,250ha
町有林	692ha

町の面積の約半分が**森林**

林業はほそぼそ…

栗山町の林業と木材工場等の歴史

- 昭和20年代 戦時、戦後の低迷期後は炭鉱の坑木や炭鉱住宅建設用の建材として林業も盛ん
- 昭和30年代 炭鉱鉄道を活用し、製材工場、木材工場、床材工場が町内に10数カ所
- 昭和40年代 炭鉱の閉山に伴い人口も減少、製材工場等も徐々に縮小
- 昭和50年代以降 製材工場、木材工場、床材工場が次々と閉業
- 平成20年 製材工場等はゼロ、林業事業所も4社となる

森林環境譲与税を契機に森林の活用方法を再考

- 令和元年から 森林環境譲与税により林業、木材産業の見直し
SDGs、脱炭素、災害防止から森林が見直される
- 令和4年から 森林空間の活用に着目し、「ゼロカーボンの森」造成
森林に関連する新たな雇用を生み出すサービス産業
森林を活用した関係人口・関係企業の創出
これらが地域活性化へと繋がる

事例紹介の内容

- 1 栗山町の紹介
- 2 「ほっかいどう企業の森林づくり」
- 3 企業との連携による森林づくり
 - ・ 連携のきっかけ
 - ・ 取組の内容
 - ・ 課題
 - ・ 実務プロセス
 - ・ 取組の成果
- 4 今後の見込み



ほっかいどう 企業の森林づくり

×

栗山町

- 栗山町では、過去にも「ほっかいどう企業の森林づくり」を行った実績
- 行政職員としては珍しい「木育マイスター」を習得
- 令和4年 北海道から委嘱
 - 「ほっかいどう企業の森林づくり」推進協議会構成員
 - 「ほっかいどう企業の森林づくり」森林づくりコーディネーター

これまでの「企業の森林づくり」

- ①栗山町と企業とで協定書を締結（賃貸ではなく森林整備）
- ②企業と森林組合とで委託契約
（地拵え、植栽、下刈り（5年分）の費用を企業が負担）

これからの「企業の森林づくり」に求められているもの

- ①SDGsの流れを受け、企業のCSR（企業の社会的貢献）においてCO²吸収源対策としての森林づくりに注目が集まっている。
- ②植樹だけではなく、枝打ちや除間伐の「育林」の実施
- ③チームビルディングを目的とした体験プログラム等での社員研修の場
- ④町有林での植栽と併せて、枝打ち等の育林体験が可能な森林

企業の方々とお話すると…

企業にとっては財政的なメリットがない
せっかくの「企業版ふるさと納税制度」を使いたい

事例紹介の内容

- 1 栗山町の紹介
- 2 「ほっかいどう企業の森林づくり」
- 3 企業との連携による森林づくり
 - ・ 連携のきっかけ
 - ・ 取組の内容
 - ・ 課題
 - ・ 実務プロセス
 - ・ 取組の成果
- 4 今後の見込み

連携のきっかけ

ほっかいどう企業の森林づくりに興味があった
住友林業(株)木材建材事業本部北海道支店 を北海道から紹介



取組みの内容

○企業のメリット

- ・企業版ふるさと納税を活用し税制上のメリット
- ・植栽だけではなく、枝打ち等育林体験等を希望する企業にも対応可能
- ・企業の森林づくりに参画している企業同士の交流の場
- ・「ゼロカーボンの森」ワーケーション施設での社員研修、福利厚生

○町のメリット

- ・栗山町を訪問してくれることで関係人口・関係企業が増加
- ・計画中の「ゼロカーボンの森」にも注目が集まっており、森林体験、ワーケーション等での連携も可能
- ・SDGsを絡め「林業」「森林空間」を地域活性化のツールとした取組みが期待
- ・寄附金の一部を基金化し、協定地以外の町有林の環境保全や「ゼロカーボンの森」整備費用に活用可能

企業と町にメリットがあることで、持続可能な取組みと関係性を構築
民間資金を活用した町有林の森林整備と関係人口の創出と森林空間の新たな活用

新栗山版「企業の森林づくり」

企業と一緒にできる活動紹介①



○森林教育（材出し）

植栽予定地での材出しにより、森林内のゴミ（タンコロ等の未利用材）を減らし、1本でも多くの木を植えることがCO₂吸収源対策となる活動。



企業と一緒にできる活動紹介②



○森林教育（薪割り）

搬出したタンコロ等の未利用材を薪にします。薪割りも斧や手動薪割り機、色々な方法で薪割りができます。



企業と一緒にできる活動紹介③



○森林教育（薪の活用）

薪を燃料として、焚火での昼食作りや薪ストーブを活用したテントサウナ等、コミュニケーションの場が生まれます。



「ゼロカーボンの森」構想

- ・面積 約30ha
 - ・樹木 200種 13,000本
 - ・森林ワーケーション
 - ・森カフェ
 - ・森林公園
 - ・森林キャンプ場
- ・薪割り、サウナ
 - ・馬、羊
 - ・薪割り等木育体験フィールド
 - ・木質バイオマス等ゼロカーボンフィールド



複数社による一団地での企業の森林づくり

①協定面積が大きいと費用も高くなる

- 1社1haとして4社で事業ができないか
1社1haずつ分割ではなく、4社合同で4ha
- 住友林業(株)の取引先等を紹介してもらい、

住友林業(株)木材建材事業本部北海道支店
山地ユナイテッド(株)・北海広葉木材(株)・(株)吉条木材商会

②4社ともに同じ内容での協定締結

- 各社の要望を協定書に反映、都度4社に確認
各社の要望は様々(植樹の樹種、植樹体験会後のBBQ、PR方法等)

③道内初4社合同での企業の森林づくりの協定締結式・植樹体験会

- 4社代表、町長の日程調整等が大変

どれだけ要望に応えられるかが鍵

企業版ふるさと納税等を活用した新たな手法

- ① 企業版ふるさと納税、一般寄附による森林整備費用の受け方
 - ・ 町の会計上、寄附を受けた年度、翌年度までに使わないといけない
 - ・ 森林整備費用（1年目・植栽、2～5年目・下刈り）＝寄附額
 - ・ 企業版ふるさと納税の税額控除の特例措置が令和6年度まで
令和6年度以降の費用を令和6年度に一括で支払う方も企業も
→ 寄附金を基金化する必要がある
新たに「栗山町森林（もり）づくり基金」を設置、条例化
- ② 企業版ふるさと納税を使うとネーミングライツが使えない
 - ・ 寄附を受けて森林整備した森林に「住友林業の森」とネーミングライツ禁止
内閣府令「寄附を行うことの代償として経済的な利益を供与すること」
 - ・ 無償のネーミングライツは禁止だが、有償のネーミングライツは可能
→ 寄附金で整備した森林にネーミングライツをするために、
新たに「栗山町企業の森林づくりネーミングライツ事業実施要綱」を制定
1ha当り100,000円で5年間のネーミングライツ附与権

北海道には事例もなく手探り状態、関係部署と連携しながら1年かけ制度設計

実務プロセス

R4.8月キックオフ

R5.7月

R5.9月

R6.1月

企業の森林づくり参画企業との調整及び栗山版の制度設計

4社合同調印式
植樹体験の調整

調
印
式

寄
附

R4.8月

R5.8月

9月

調印式 10月

11月

12月

入札事業費確定

議会説明

植樹体験会

人工造林完了

事業報告書(請求)

○R4.8～
R5.7

- ・北海道から住友林業を紹介、以降3社も住友林業の紹介
～費用の考え方、寄附金による仕組み、樹種、コンテンツ等
- ・制度設計、企業版ふるさと納税による森林整備の手法

○R5.7

- ・9月以降の合同調印式、体験植樹会の調整

○8月

- ・人工造林の入札によりR5分の事業費が確定

○9月

- ・12月議会提案の「基金条例」と仕組みを全員協議会で説明
- ・ネーミングライツ公募、決定、看板設置

○9.21

- ・道内初となる4社合同調印式

○10.1

- ・4社合同植樹体験会(※1社 福利厚生のためBBQ)

○11月

- ・人工造林完了

○12月

- ・事業報告書=請求書の代わり

18 ○R6.1

- ・企業版ふるさと納税・一般寄附による寄附

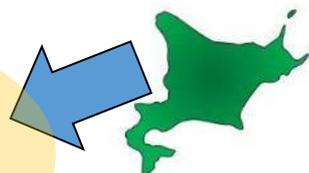
取組みの成果

企業版ふるさと納税制度を活用した新たな仕組み



町有林人工造林委託
4ha 5,940千円
歳出

企業の森林づくり記念植樹
苗木代 110千円
歳出 事業用



北海道から
森林環境保全整備事業補助金
道→町 約62%補助
4ha 3,682千円
歳入 3,682千円
歳出 5,940千円に充当



企業版ふるさと納税+一般寄付5,940千円のうち、
直接充当分 2,258千円 (町単費予定分=補助残を充当)
ネーミングライツ
直接充当分 110千円 (記念植樹苗木代)

住友林業 一般寄付1,485千円
ネーミングライツ100千円

企業版ふるさと納税
4,455千円
歳入 総務寄附金

一般寄附金
1,485千円
歳入 総務寄附金

ネーミングライツ
400千円
歳入 雑入

栗山町森林(もり)づくり基金

歳出 3,972千円
栗山町森林づくり基金積立金

企業版ふるさと納税+一般寄付
3,682千円
ネーミングライツ
290千円

協定地以外の森林整備、林道維持
管理費等に充当も可能
参画企業の木育体験費用財源
ゼロカーボンの森の整備費等にも
活用予定

ヤマチ・北海広葉木材・吉条木材
企業版ふるさと納税 4,455千円
(1社1,485千円)
ネーミングライツ300千円
(1社100千円)

事例紹介の内容

- 1 栗山町の紹介
- 2 「ほっかいどう企業の森林づくり」
- 3 企業との連携による森林づくり
 - ・ 連携のきっかけ
 - ・ 取組の内容
 - ・ 課題
 - ・ 実務プロセス
 - ・ 取組の成果
- 4 今後の見込み

今後の見込み

絶賛募集中！ 12.42ha 毎年皆伐しますので、是非お越しください！



今後の見込み

「企業の森林づくり」の話しから、様々な連携につながる

ソマノベース

2011年紀伊半島大水害の被災体験から「林業を通して土砂災害リスクの低い山林を増やす」をMISSIONに「戻り苗」事業を展開



木育を目的とした出生祝い
どんぐりから育て数年後に植林する事業を検討中
木鉢も栗山町産材トドマツで、町内事業者により作成



今後の見込み

「企業の森林づくり」の話から、様々な連携につながる

SHIRO

企業の森林づくりの現場確認中、会長がいきなり斜面を登りだす
話を聞くと「ふきのとう」を採取、洗顔や化粧水の原料になるとのこと
栗山町の「ふきのとう」で栗山町をPR



ご紹介した旬シリーズ『ふき 2023』



自然の恵みで皮脂バランスを保つ、
力強いグリーンを感じる濃密泡のフェイスウォッシュ

ふきフェイスウォッシュ 2023
4,800円(税込)

大地の息吹を感じる微細ミストで包み込む、
ゆらぎ知らずの肌へ導くオイルインフェイスミスト

ふきオイルインウォーター 2023
3,960円(税込)



間伐による森林整備
薪の活用
蒸留器によるサウナ
ロウリュウ水の開発
等も連携予定

北海道夕張郡栗山町 -ふきのとう-
北海道では春を告げる植物として知られ、
し、花が咲いた後に地下茎からでてきた
ノールの一種であるフキノリド。外的スト
です。それに加えて、強い抗酸化作用を
を整える力を持ち、ゆらぎ知らずの健や



KURIYAMA_HMB48

H M B 48
放課後 薪割り 部

ご清聴、ありがとうございました